

特定非営利活動法人
国境なき医師団日本

〒162-0045
東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST 早稲田 FIRST 3階
Tel: 03-5286-6123(代表) Fax: 03-5286-6124
E-mail: office@tokyo.msf.org

www.msf.or.jp

メールマガジンのご登録はこちらから

国境なき医師団 メールマガ 検索



国境なき医師団の最新の活動をご覧ください。



活動 報告書

2018年1月→12月

特定非営利活動法人
国境なき医師団日本

Activity Report 2018

January-December 2018
Médecins Sans Frontières Japan



国境なき医師団とは

About MSF

医療援助を第一に

国境なき医師団 (MSF) は、非営利で国際的な民間の医療・人道援助団体です。危機に瀕した人びとへの緊急医療援助を主な目的とし、医師、看護師をはじめとするスタッフが、世界約70の国と地域で援助活動を行っています。1971年にフランスで設立されました。

独立・中立・公平

MSFは誰からも干渉や制限を受けることなく、助けを必要としている人びとの元へ向かい、人種や政治、宗教にかかわらず、分け隔てなく援助を届けます。

世論に訴える

援助活動の現場では、虐殺や強制移住など激しい人権侵害を目の当たりにすることもあります。MSFはそのようなとき、医療だけでは人びとの命を救うことができない現状を国際社会に証言します。

国境なき医師団憲章

The Charter of MSF

国境なき医師団は苦境にある人びと、天災、人災、武力紛争の被災者に対し人種、宗教、信条、政治的な関わりを超えて差別することなく援助を提供する。

国境なき医師団は普遍的な「医の倫理」と人道援助の名の下に中立性と不偏性を遵守し、完全かつ妨げられることのない自由をもって任務を遂行する。

国境なき医師団のボランティアはその職業倫理を尊びすべての政治的、経済的、宗教的権力から完全な独立性を保つ。

国境なき医師団のボランティアはその任務の危険を認識し国境なき医師団が提供できる以外には自らに対していかなる補償も求めない。

Contents

国境なき医師団憲章 The Charter of MSF	2	財務報告 Financial Report	12
会長・事務局長からの挨拶 Message from the President & the General Director	4	【MSFワールドワイド】 2017年 活動概況 MSF Worldwide Facts & Figures	16
海外派遣実績 Field Staff Sent by MSF Japan	6	謝辞 Acknowledgements	18
海外派遣スタッフの声 Voice from the Field	8	企業・団体・個人のご支援方法・事例 How to Support MSF	21
現地スタッフの声 Voice from the Field	9	MSF日本の活動から Updates of MSF Japan	23
財務ハイライト Financial Highlights	10		

バングラデシュのロヒンギャ難民キャンプで、夜明け前に生まれた赤ん坊にそっと湯あみをさせる女性たち。© Robin Hammond/NOOR

表紙: エボラ出血熱の流行が宣言されたコンゴ民主共和国のエボラ治療センターで、高リスク区画へ入る前に防護服を着用するMSFのスタッフ。© John Wessels

裏表紙: レバノン東部、ベッカー高原の国営病院でMSFが運営する小児病棟。シリア難民のアマラちゃんは生まれつきの呼吸器の疾患で入院している。© Florian SERIEX/MSF

暴力から逃れた人びと、感染症の流行にさらされた人びと……。

困難に直面しながらも、国境なき医師団は多くの命の危機に対応し続けました。

国境なき医師団 (MSF) スタッフを代表して、2018年に賜りましたご支援に心よりお礼申し上げ、活動のご報告をさせていただきます。皆さまのご支援で、2018年、MSFは70を超える国と地域で400件を超えるプロジェクトを進め、多くの人びとに医療を提供することができました。この中には、新たにプロジェクトを立ち上げ緊急援助を行った地域があり、また中央アフリカ共和国、南スーダン、シリア、イエメンなど、終わりの見えない紛争で危機的な状況が続く、長く活動を継続している国々もあります。

2018年は、複雑さと困難さを増す状況に向き合う年でもありました。

エボラ出血熱が再び流行したコンゴ民主共和国。今回の流行以前から、国内で起こった紛争で住まいを追いやられ、保健医療を必要とする多くの人びとを援助してきたMSFですが、暴力と治安悪化で街が荒廃した北キブ州では、ウイルスの追跡や封じ込め、治療といった活動は、通常のエボラ対応にはない困難を伴っています。

紛争や差別から逃れた難民、暴力からの保護を求める人びとへの援助も世界中で続けました。ミャンマーからバングラデシュへのロヒンギャ難民の脱出も続き、バングラデシュの難民キャンプでは90万人以上の人びとがひしめき合っています。MSFは医療・心のケア活動を拡大し、医療援助のみならず、暴力による心の傷の治療にも取り組みました。

地中海では、紛争や暴力から逃れて中東やアフリカから小船でヨーロッパを目指す多くの人びとの命が危険にさらされています。MSFは地中海における捜索や海難救助を続けてきましたが、各国の政治的な思惑により活動停止に追い込まれ、命がけの危険な旅を続けてきた人びとが上陸を拒否され、何週間も海上を漂流するという事態となりました。その多くがリビアからの難民ですが、リビアに残り残されたり、連れ戻されたりした人びとは非人道的な環境に置かれています。

泥沼の内戦が4年目に突入し、病院までもが爆撃される事態となったイエメンでは、崩壊した保健医療システムをサポートすべく、世界最悪のコレラ流行、大規模な食糧不安など、繰り返される危機的状況に対応しました。

MSFはこうしたさまざまな緊急事態において、はしかや髄膜炎の予防接種、マラリア治療の他、HIV／エイズ、結核、C型肝炎患者の治療、分娩介助なども行いました。

皆さまのご支援は、私たちに医療援助活動の手段を与えてくださるばかりでなく、もっと多くの人びとに支援を届けたいという私たちの背中を押してくださっています。これからも私たちは、人道援助活動の意義を理解し、MSFをご支援してくださる方がたの輪を広げられるよう、全力で取り組んでまいります。それがどこであろうと、その人が誰であろうと、医療援助を必要とする人びとに適切な援助を届けるため、独立・中立・公平な組織として最善を尽くしてまいります。



国境なき医師団日本
事務局長

ジェレミ・ボダン

Jérémie Bodin
General Director
Médecins Sans Frontières Japan

©Ayako Hachisu



国境なき医師団日本
会長

加藤 寛幸

Hiroyuki Kato MD
President
Médecins Sans Frontières Japan

©Toshiya Abe

加藤 寛幸

日本からは106人が派遣され、27の国と地域で援助活動を行いました

2018年、国境なき医師団(MSF)日本からは計106人のスタッフが、延べ148回、
27の国と地域に派遣され、援助活動を行いました。

※ リストは2018年に現地で活動を開始した人が対象。



紛争の負傷者や国内避難民への医療の提供
[南スーダン／助産師]

シエラレオネ

米澤 出(産婦人科医)

ホンジュラス

國吉 悠貴(助産師)

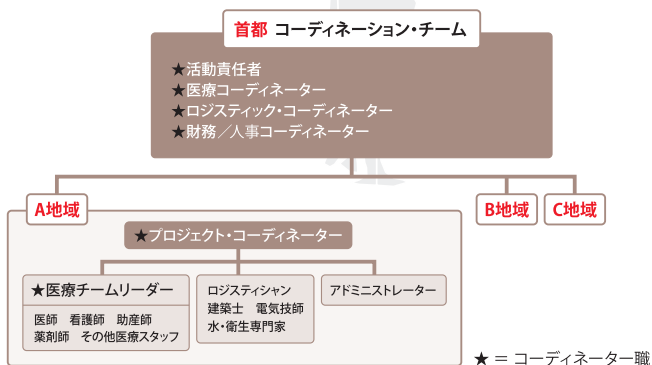
リベリア

山中 宏晃(外科医) 小野里 宏代(アドミニストレーター)



過激派組織による襲撃被害者への医療の提供
[ナイジェリア／産婦人科医]

MSF 現地活動組織図



パレスチナ

小林 直之(外科医) 堀田 シルヴィア 菊(アドミニストレーター)
城倉 雅次(整形外科医) 白根 麻衣子(アドミニストレーター)
渥美 智晶(外科医) 大竹 優子(手術室看護師)
安藤 恒平(整形外科医) 福岡 一美(手術室看護師)
小林 信久(アドミニストレーター) 佐藤 真史(手術室看護師)
趙 潤華(広報)

リビア

中嶋 秀昭(副プロジェクト・コーディネーター) 松本 理恵(プロジェクト・コーディネーター)
セラフィマ・コンシンスカヤ(アドミニストレーター) 小島 穂奈(助産師)
岡田 まゆみ(救急医)

南スーダン

小杉 郁子(外科医) 野坂 慎吾(副財務コーディネーター)
吉野 美幸(外科医) 丸井 和子(ロジスティシャン) * 同国2回
稲生 照久(外科医) 堀江 純(アドミニストレーター)
池田 知也(外科医) 辻 綾子(アドミニストレーター)
岩元 祐太(内科医) 的場 紅実(薬局コーディネーター)
間瀬 健次(外科医) 宮家 佐知子(IEC)
西野 恭平(内科医) 福岡 一美(手術室看護師)
氏川 智皓(内科医) 國古 悠貴(助産師)
空野 すみれ(産婦人科医) 長嶺 亜香利(薬剤師) * 同国2回
萩原 健(プロジェクト・コーディネーター)

ニジェール

吉田 文(医療チームリーダー)

ナイジェリア

岩川 真由美(小児科医) 岩元 祐太(疫学専門家)
伊藤 まり子(産婦人科医) 空野 すみれ(産婦人科医)
竹中 裕(産婦人科医) 落合 厚彦(プロジェクト・コーディネーター)
西島 翔太(産婦人科医) 堀江 純(財務コーディネーター)
鈴木 美奈(産婦人科医) 大野 充(看護師)

カメルーン

岩元 祐太(内科医) 小島 穂奈(助産師)

中央アフリカ共和国

村上 大樹(外科医) 李 亘(フライト・コーディネーター)
吉野 美幸(外科医) 杉山 結理(助産師)

コンゴ民主共和国

井田 寛(活動責任者) 松本 明子(医療コーディネーター)
堀 正貴(サプライ・ロジスティシャン) 吉田 文(医療チームリーダー) * 同国3回
ディディエ・ジャック・アサル 畑井 智行(看護師)
(ロジスティック・コーディネーター) 吉田 亜梨沙(看護師)
アサニ 美里(医療チームリーダー)

MSF日本 職種別派遣回数

医師	41回	プロジェクト・コーディネーター	6回
アドミニストレーター *1	22回	IEC *4	4回
看護師	21回	薬剤師	3回
その他のコーディネーター *2	12回	活動責任者	2回
ロジスティシャン *3	12回	疫学専門家	2回
医療チームリーダー	11回	広報	2回
助産師	9回	アドボカシー *5	1回
合計	148回		

2018年の初回派遣割合
約28% (30人)

ウクライナ

趙 潤華(広報)

シリア

伊藤 まり子(産婦人科医)
保野 由紀子(産婦人科医)
中嶋 優子(麻酔科医)
佐藤 聖子(麻酔科医)
関 聡志(外科医)
青木 義紘(内科医)
萩原 健
(プロジェクト・コーディネーター・活動責任者) * 同国2回
野坂 慎吾(アドミニストレーター)
松田 美穂(看護師)
大竹 優子(手術室看護師)

ヨルダン

高橋 央(助産師)

ミャンマー

曳田 彩子(内科医)

イエメン

久留宮 隆(外科医)
塩澤 幹雄(外科医)
高橋 千恵(アドミニストレーター) * 同国2回
上平 明美(医療チームリーダー)
神田 紀子(薬剤師)

エチオピア

鈴木 美奈(産婦人科医) 松本 明子(医療チームリーダー) * 同国2回
遠藤 悠(IEC) 宮家 佐知子(IEC)
熊澤 ゆり(アドミニストレーター)
ディディエ・ジャック・アサル(ロジスティシャン) * 同国2回

スーダン

吉田 由希子(ロジスティシャン)
藤田 真人(副サプライ・コーディネーター)

ケニア

高多 直晴(アドミニストレーター)
アサニ 美里(医療チームリーダー)

ウガンダ

菊地 寿加(看護師)

マラウイ

岩本 桃子(医療チームリーダー)
ブライアン・デイヴィス(アドボカシー)



紛争で暴力を受けた人の治療と心理ケア
[パレスチナ／アドミニストレーター]

アフガニスタン

西山 聡子(アドミニストレーター)

イラク

村上 大樹(外科医) 川村 睦美(アドミニストレーター)
三浦 由紀子(麻酔科医) 齋藤 珠恵(アドミニストレーター)
大田 修平(外科医) 道津 美岐子(医療チームリーダー)
滝上 隆一(外科医) 村上 千佳(助産師) * 同国2回
西岡 憲吾(麻酔科医) 倉内 瞳(看護師)
山住 邦夫(建築士) 白川 優子(手術室看護師)
松本 卓朗 畑井 智行(看護師)
(ロジスティック・コーディネーター) 菊地 寿加(看護師)
ナンジュ・モリス・ランナップ 佐藤 真史(手術室看護師)
(プロジェクト・コーディネーター)

バングラデシュ

平井 亜由子(医療コーディネーター) 堀田 シルヴィア 菊(アドミニストレーター) * 同国2回
團野 桂(内科医) 平塚 竜一(ロジスティシャン)
西野 恭平(疫学専門家) 末藤 千翔(アドミニストレーター) * 同国2回
宋 正実(サプライ・コーディネーター) 穴倉 真理子(アドミニストレーター)
熊澤 ゆり(アドミニストレーター) 小篠 哲子(助産師)

日本

渥美 智晶
(副プロジェクト・コーディネーター)
落合 厚彦(ロジスティシャン)
倉之段 千恵(看護師)

バブアニューギニア

アントン・ラソレンコ(ロジスティシャン)
川内 勇希(メカニカル・ロジスティシャン)
伊藤 洋子(アドミニストレーター)
宮澤 明子(サプライ・ロジスティシャン)
錦織 智子(IEC)



西日本豪雨被災地での医療支援
[日本／副プロジェクト・コーディネーター]

海外派遣スタッフを募集しています。

MSF日本では、世界各地で活動を行う医療従事者(医師、助産師、薬剤師、臨床検査技師、臨床心理士)およびロジスティシャン、アドミニストレーターなどを常時募集しています。お気軽にお問い合わせください。

E-mail: recruit@tokyo.msf.org
www.msf.or.jp/team_msf/

*1 アドミニストレーター: 現地活動の財務・会計・人事管理を担当。
*2 その他のコーディネーター: 活動責任者・副活動責任者およびプロジェクト・コーディネーター以外のコーディネーター職。
*3 ロジスティシャン: 物資調達、施設・機材・車両管理等、状況に応じて医療以外の業務全般を担当。
*4 IEC: Information Education Communication。コミュニティ内の健康教育・啓発活動を担当。
*5 アドボカシー: 政府機関や関係諸団体と交渉し、人道援助のための政策の変更や新たな施策を求める活動を担当。

※ 国境なき医師団では、約4万5000人の海外派遣スタッフ・現地スタッフ・事務局スタッフが世界各地で働いています(2017年実績、詳しくは17ページ)。

紛争地の現実、 生きられない赤ちゃん…… 苦渋の決断に悔しい思いも

大竹優子(手術室看護師/イエメン)

中学生の時、世界には自分と同じ年代の子どもたちが貧困や紛争で命を落としていることを知り、大人になったらこの人たちの力になりたい、と将来の夢を持つようになりました。国境なき医師団(MSF)で3回目の活動となる今回は、イエメンの西海岸、紛争の前線に近いモカという町での緊急医療援助でした。

ある日、生まれた赤ちゃんは、臓器がお腹の外に飛び出した状態で生まれる先天性の奇形で、このままでは数日で亡くなると診断されました。的確な術前診断や手術ができる高度な医療設備は、ここにはありません。他のMSFの病院に搬送することも検討しましたが、そこでも治療は難しく、結局、何もできませんでした。残された時間を家族と一緒に過ごせるように努めることが、私にできる精いっぱいのことでした。厳しい現場の限界を知っていたつもりでしたが、

これから亡くなるわが子を愛おしい眼差しで見ている母親とその子を目の当たりにして、悔しさでいっぱいでした。

地雷で右手を負傷し運ばれてきた男の子は、病院到着時には親指が取れかかっている状態で、切断するしかありませんでした。父親は、将来この子がペンを持てなくなってしまうのではと、とても心配していました。幸い命に別条はありませんでしたが、皮膚移植など、その後何回も手術をする必要があります、そのうち、父親は仕事や家族の世話があるとの理由から、とうとう病院に来なくなってしまいました。現地では、貧困のため子どもがある程度大きくなると学校に行かせず家の手伝いをさせたり、物乞いをさせたり、一人で生きるようにさせたりする親もたくさんいる、ということを知りました。

戦争は貧困を生み出し、子どもの将来や、家族との大切な時間を奪ってしまうという現実、とても心が痛かったです。そんな中でも、その男の子は私たちに毎日笑顔を見せてくれました。この子たちが一日も早く平穏な生活を送れるようになることを願うばかりです。



©MSF

2018年に開設したモカの病院で最初に生まれた赤ちゃん

地元看護師としてエボラに対応 患者の退院が一番の喜び

パシャ・ムヒンド・カマヴ(看護師/コンゴ民主共和国)

2018年8月1日にエボラ出血熱の流行宣言が出され、次の日に、国境なき医師団(MSF)から仕事の依頼を受けました。コンゴ民主共和国(以下、コンゴ)で、またエボラの集団感染が起き、MSFが対応に乗り出そうとしていました。私はエボラに関わる活動経験が以前にもあるので、すぐに引き受けました。

流行の中心地・マンギナの地域診療所に着いてみると、診療所は大わらわで、患者の適切な隔離ができていない状態でした。これでは、医療スタッフもエボラ以外の治療で訪れる患者も、エボラに感染しやすくなってしまいます。ここで助けを必要としている人たちがいることは明らかでした。

当時、地元のスタッフは、簡単な防護装備しか着けていませんでした。そこで私たちはまず、エボラに対応できる防護装備を手渡し、着用の仕方などを伝えました。次いで、

スタッフと患者の移動経路を決めました。エボラ感染予防のための適切な手順を確立し、患者の導線を確保することは、エボラ対策の要です。二次感染のリスクが低減され、診療所内の安全性も高まります。

感染が疑われる患者を隔離するため、症状に応じて治療の優先度を判断するトリアージも実施しました。さらに、患者が過去に接触したことのある人びとについて調査し、ウイルスの拡大経路を把握できるようにしました。その後、MSFの応援部隊が到着し、私たちのチームは患者のケアに集中できるようになりました。そして、ロジスティシャンらによる昼夜を問わない働きのおかげで、翌日には新たな病院が完成。受け入れる患者の数は、数日で一気に増えました。

私たちには、患者さんがエボラから回復して退院する時、必ずすることがあります。ダンスをして患者さんを見送ることです。患者さんの退院は、とても嬉しいです。私たちが成し遂げたことを本当に誇りに思っています。大変ですが、成果は上がっています。わがコンゴには、偉業を成し遂げられる人がたくさんいるのだと思っています。



©Caitlin Ryan/MSF

コンゴ人看護師の
パシャ・ムヒンド・カマヴ



イエメン

反体制デモを機に内戦となり、2015年3月以降は政府軍と反政府勢力の武力衝突が激化。多国籍軍の介入で、各地で空爆が繰り返されている。MSFは、医療施設への攻撃をやめるように繰り返し求めている。



一緒に働いたスタッフとともに
©MSF



コンゴ民主共和国

東部を中心に紛争が続き、2017年だけで410万人が国内避難民となっている。MSFは暴力被害者の治療、栄養失調、感染症の流行に対応するほか、緊急チームが監視を続けている。



患者の退院を喜ぶスタッフたち
©Karin Huster/MSF

2018年度の日本経済は、輸出、個人消費が伸び悩み、総じて株価も低迷、加えて、西日本豪雨などの自然災害の影響もあり、著しい成長は見られませんでした。そのような環境の下、国境なき医師団（MSF）は2018年度も多数の支援者の皆さまからのご厚意に支えられ、助けを必要とする多くの人びとに、医療を届けることができました。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

MSFは、2018年度において、医療体制が崩壊した南スーダンの難民・避難民への基礎医療の提供、バングラデシュのロヒンギャ難民への感染症対応、モスル解放後の劣悪環境下のイラクでの診療活動、インドネシアでのスラウェシ島地震緊急援助、コンゴ民主共和国でのエボラ出血熱の再発対応など、世界各国・地域で医療・人道援助活動を展開しました。

財務的に総括しますと、収益は、個人および法人支援者等からの寄付が84億9026万円で、前年比7.7%増加しました。外務省からの助成金、MSF韓国からのグラント等を加えた経常収益は合計89億1016万円となり、前年比で9.9%増加しました。

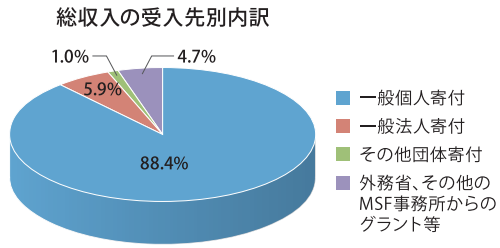
一方、事業活動費は、総額89億438万円を計上、前年比で8.0%の増加となりました。その内訳は、援助活動費が65億3217万円、海外派遣スタッフ募集・派遣業務費が1億1135万円、オペレーション・サポート費が5351万円、広報活動費およびアドボカシー活動費が3億1870万円、募金活動費が14億49万円、マネジメント・一般管理費として1億9111万円、その他海外への支援金等として2億9705万円を計上しました。総括すると、収入が9.9%増えたこと、また費用の見直しによりコストを14%削減できたことが、人道援助プログラム支援金の増額（18.2%）につながりました。その結果、最終収支は578万円の余剰となり、正味財産（剰余金）の期末残高は、9億1334万円となりました。活動ごとの詳細は、P.12の正味財産増減計算書に記載の通りです。

上記のプログラム支援金は、5つのオペレーション事務局を通し、中央アフリカ共和国、ナイジェリアなど合計24の国と地域で運営された援助プログラムに配分されました。なお、指定寄付の一部を国内活動に配分し、西日本豪雨の際の、愛媛県および広島県呉市での診療活動に充当しました。海外活動地への配分額等の詳細については、P.11の付表をご参照ください。

今後とも、この財務報告を通し、透明性のある説明責任に努めてまいります。

1. 総収入（経常収益）は89.1億円（前年比9.9%増）

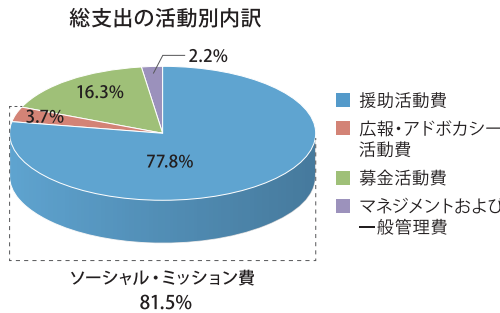
総収入の内訳は、民間からの寄付収入が84.9億円（うち、現物寄付が2423万円）。他に、外務省、MSF韓国からの助成金等、計4.2億円およびその他の収入が228万円でした。なお、支援者数の内訳は、右記の通りです。



一般個人支援者数	313,188人
一般法人支援社数	7,409社
その他支援団体数	1,834団体
延べ支援者総数	322,431
支援者総数は、前年比で1%増加しました。また現金での寄付以外にも、左記の通り、現物寄付およびプロボノによる無償での役務提供、という形でのご支援も数多くいただきました。	

2. 総支出（経常費用）は89億円（前年比8%増）

MSF日本の、2018年度の活動別支出内訳は、右図の通りです。人道援助プログラム支援金は65.2億円。海外派遣スタッフの募集・派遣業務、オペレーション・サポート、広報・アドボカシー活動費を併せた、ソーシャル・ミッション支出は前年比で15.5%上昇し、計70.1億円。ソーシャル・ミッション・レシオは81.5%でした。同レシオは、ソーシャル・ミッション支出の合計を、年度の経常費用総額からその他海外向け支援金等を控除したもので、で除して算出しています（以下4. ご参照）。



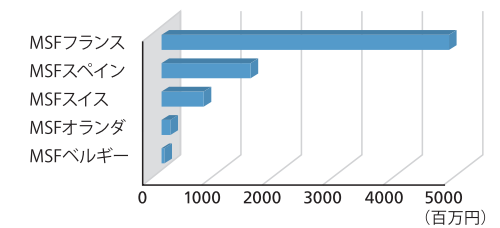
(百万円)	
① 援助活動費	6,697
・ 人道援助プログラム支援金	6,521
・ スタッフ募集・派遣オペレーション・サポート費	176
② 広報・アドボカシー活動費	319
③ ソーシャル・ミッション費計(①+②)	7,016
④ 募金活動費	1,400
⑤ マネジメントおよび一般管理費	191
⑥ その他海外向け支援金等	297
経常費用合計(③+④+⑤+⑥)	8,904

※詳細は、P.12に掲載の「主要財務諸表、正味財産増減計算書」をご参照ください。

3. 人道援助プログラム支援金は総額65.2億円（前年比18%増）

MSF日本は2018年度において、資金配分協定RSA-3（the 3rd MSF Resource Sharing Agreement）に基づき、パートナーシップ関係にあるMSFフランス、MSFスペインおよびMSFスイスに対し総額64.1億円、および緊急援助資金として、MSFオランダおよびMSFベルギーに対し1.1億円、合計65.2億円の支援金を配分しました。

医療・人道援助プログラム支援費65.2億円の配分内訳



(百万円)	
MSFフランス	4,585
MSFスペイン	1,216
MSFスイス	608
MSFオランダ	96
MSFベルギー	16

※2018年度の支援金の国別配分額の詳細については、P.11をご参照ください。

4. ソーシャル・ミッション・レシオについて

ソーシャル・ミッションとは「社会的な使命」という意味ですが、MSFはこのレシオ（比率）を、“皆さまからお預りした資金をいかに医療・人道援助活動へ優先して充当しているか”を評価する尺度として使っています。

MSF日本の2018年度と同レシオは81.5%でした。なお、2018年度から同レシオの算出方法を変更し、ソーシャル・ミッション支出合計を分子に、総支出額の合計から「その他海外向け支援金等」を控除した数値を分母として、行っております。これは他のMSF事務局に倣い、国内活動費の配分上の効率性を測定するのが目的です。2018年度は、拡大する援助活動への資金ニーズに応じるために、その他のコストを削減し、オペレーション事務局への支援金を増額できたことで、資金の効率性が大幅に改善されました。なお、同じベースで再計算した2017年度と同レシオは76.4%でした。

（注）個別数値は四捨五入して表記しているため、各数値の合計と「合計」が異なる場合がある。以下のページも同様。

付表 1. MSF日本による2018年度の医療・人道援助プログラム支援金の配分先

MSF日本が2018年度に拠出した人道援助プログラム支援金65.2億円は、以下の24の国と地域の各プログラムに配分されました。

		(百万円)		(MSFフランス:FR、MSFスペイン:SP、MSFスイス:CH、MSFオランダ:NL、MSFベルギー:BE)
	国/地域	金額	2018年度の主要プログラム	オペレーション事務局
アフリカ	中央アフリカ共和国	851.1	基礎・二次医療/暴力被害者支援/マラリア対応	FR/SP
	ナイジェリア	600.0	避難民への栄養治療/感染症対応	FR/SP
	南スーダン	503.7	避難民への医療支援/緊急支援/感染症対応	FR/CH
	ケニア	300.0	性暴力被害者治療/産科医療/HIV/エイズ治療	FR
	ウガンダ	200.0	南スーダン難民への基礎医療/産科医療/心のケア	FR
	ニジェール	200.0	小児科/栄養治療/マラリア対応/難民への医療援助	FR
	コンゴ民主共和国	187.9	暴力被害者支援/マラリア・コレラ対応/エボラ出血熱対応	FR/SP
	ブルキナファソ	148.0	デング熱対応	CH
	カメルーン	100.0	避難民の栄養治療/外来診察/外科	CH
	リベリア	100.0	外科・救急を含む二次小児医療/心のケア	FR
	計	3,190.7		
中東	イエメン	509.9	内戦による負傷者治療/産婦人科/基礎医療	FR/SP
	イラク	450.0	シリア難民への緊急医療	FR
	シリア	443.6	避難民への緊急医療/基礎医療/分娩介助	FR/CH
	パレスチナ	407.7	紛争による負傷者治療・リハビリ心のケア	FR/SP
	レバノン	200.0	シリア難民への外来診療/心のケア/小児科	FR/CH
	ヨルダン	150.0	シリア難民への医療援助/慢性疾患治療	FR
	計	2,161.2		
中南米	ハイチ	100.0	熱傷の治療	FR
	計	100.0		
アジア	バングラデシュ	415.7	ロヒンギャ難民への医療援助/水と衛生活動	FR/NL
	カンボジア	150.0	C型肝炎プログラム	FR
	アフガニスタン	150.0	母子保健	FR
	フィリピン	100.0	ファミリープランニング/子宮頸がんワクチン接種	FR
	パキスタン	100.0	母子保健/産科医療	FR
	インドネシア	3.2	地震と津波被害者の救助活動・医療提供	BE
	計	918.9		
オセアニア	バブアニューギニア	150.0	多剤耐性結核治療	FR
	計	150.0		
		総計	6,520.8	

独立監査人の監査報告書

2019年3月18日

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
会長 加藤 寛 幸 殿

有限責任 あずさ監査法人
指定有限責任社員 公認会計士 野村 哲明
業務執行社員

当監査法人は、特定非営利活動法人 国境なき医師団日本の2018年1月1日から2018年12月31日までの2018年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、正味財産増減計算書、キャッシュ・フロー計算書、財務諸表に対する注記及び財産目録について監査を行った。

財務諸表に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表に係る期間の財産、正味財産増減及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

財務報告 (主要財務諸表)

Financial Reports (Major Financial Statements)

＊MSF日本の財務諸表の詳細は、公式ウェブサイトでご覧いただけます。
Full set of Financial Statements in English is available on our official website.

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

正味財産増減計算書

自 2018年1月1日 至 2018年12月31日

(単位:円)

科 目	当 年 度		前 年 度		増 減	
	金 額	構成比	金 額	構成比	増 減	増減比
I. 一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
(1) 経常収益						
① 寄付収入	8,490,258,305	100.0%	7,882,304,555	100.0%	607,953,750	7.7%
一般個人寄付(注1)	7,880,537,956	92.8%	7,193,451,644	91.3%	687,086,312	9.6%
一般法人寄付(注1)	526,938,166	6.2%	602,724,610	7.6%	△ 75,786,444	△12.6%
その他団体寄付(注1)	82,782,183	1.0%	86,128,301	1.1%	△ 3,346,118	△3.9%
② 助成金等による収入	417,614,460		218,494,214		199,120,246	91.1%
外務省国際機関等拠出金	149,564,903		-		149,564,903	-
MSF韓国からのグラント(財務諸表 注記14.参照)	268,049,557		218,494,214		49,555,343	22.7%
③ その他の収入	2,283,095		3,841,244		△ 1,558,149	△40.6%
講演会による収入	-		21,146		△ 21,146	△100.0%
アソシエーション会費収入	605,939		583,446		22,493	3.9%
利息収入および評価益等	1,677,156		3,236,652		△ 1,559,496	△48.2%
経常収益 合計	8,910,155,860		8,104,640,013		805,515,847	9.9%
(2) 経常費用		(注5)		(注5)		
■ ソーシャル・ミッション (①+②+③+④+⑤)	7,015,735,017	81.5%	6,074,239,929	76.4%	941,495,088	15.5%
① 援助活動費	6,532,168,042	75.9%	5,528,488,070	69.5%	1,003,679,972	18.2%
人道援助プログラム支援金(注2)	6,520,831,042		5,518,441,070		1,002,389,972	18.2%
その他の人道援助活動費	11,337,000		10,047,000		1,290,000	12.8%
② オペレーション・サポート・プロジェクト	53,506,982	0.6%	57,704,807	0.7%	△ 4,197,825	△7.3%
人件費	38,564,367		32,858,914		5,705,453	17.4%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	14,942,615		24,845,893		△ 9,903,278	△39.9%
③ 海外派遣スタッフ募集・派遣業務	111,352,989	1.3%	96,353,705	1.2%	14,999,284	15.6%
人件費	76,753,217		59,587,536		17,165,681	28.8%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	34,599,772		36,766,169		△ 2,166,397	△5.9%
④ アドボカシー活動費	32,011,489	0.4%	23,951,947	0.3%	8,059,542	33.6%
人件費他	32,011,489		23,951,947		8,059,542	33.6%
⑤ 広報活動費	286,695,515	3.3%	367,741,400	4.6%	△ 81,045,885	△22.0%
人件費	95,122,890		94,231,647		891,243	0.9%
ニュースレター・イベント等による広報活動費(注3)	131,151,055		213,838,579		△ 82,687,525	△38.7%
ウェブサイト管理費	5,474,839		7,482,853		△ 2,008,014	△26.8%
業務委託手数料等	25,329,725		9,932,182		15,397,543	155.0%
印刷費	1,953,215		716,571		1,236,644	172.6%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	27,663,791		41,539,568		△ 13,875,777	△33.4%
■ 募金活動費	1,400,485,784	16.3%	1,695,129,485	21.3%	△ 294,643,701	△17.4%
人件費	150,974,289		152,720,526		△ 1,746,237	△1.1%
ファンドレイジング・キャンペーン費	869,442,281		1,109,684,694		△ 240,242,413	△21.6%
業務委託手数料およびシステム関連費	181,989,048		260,555,397		△ 78,566,349	△30.2%
通信および書類等発送費	54,680,443		58,845,263		△ 4,164,820	△7.1%
印刷費	17,920,740		18,669,837		△ 749,097	△4.0%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	125,478,983		94,653,768		30,825,215	32.6%
■ マネジメントおよび一般管理費	191,108,334	2.2%	185,043,697	2.4%	6,064,637	3.3%
人件費	130,621,485		125,126,376		5,495,109	4.4%
アソシエーション関連経費(人件費を除く)	14,568,965		17,129,739		△ 2,560,774	△14.9%
その他(家賃、旅費交通費、減価償却費等)	45,917,884		42,787,582		3,130,302	7.3%
■ その他海外向け支援金等(財務諸表 注記4.参照)	297,048,315	-	288,286,822	-	8,761,493	3.0%
DNDiへの支援金	21,759,408		24,778,866		△ 3,019,458	△12.2%
必須医薬品キャンペーン支援金	29,436,831		33,343,528		△ 3,906,697	△11.7%
MSFインターナショナル事務局経費	118,638,605		124,016,364		△ 5,377,759	△4.3%
MSF韓国事務所活動支援金(財務諸表 注記14.参照)	127,213,471		106,148,064		21,065,407	19.8%
経常費用 合計	8,904,377,450	100.0%	8,242,699,933	100.0%	661,677,517	8.0%
一般正味財産当期増減額	5,778,411		△ 138,059,920		143,838,331	
一般正味財産期首残高	890,039,238		1,028,099,158		△ 138,059,920	
一般正味財産期末残高	895,817,648		890,039,238		5,778,410	
II. 指定正味財産増減の部						
1. 使途指定寄付金受入額	316,182,510		855,022,421		△ 538,839,911	
2. 一般正味財産への振替額(注4)	298,661,510		855,022,421		△ 556,360,911	
指定正味財産当期増減額	17,521,000		-		17,521,000	
指定正味財産期首残高	-		-		-	
指定正味財産期末残高	17,521,000		-		17,521,000	
III. 次期繰越正味財産期末残高	913,338,648		890,039,238		23,299,410	2.6%

(注1) 指定正味財産増減の部(以下(注4)参照)からの振替え分、および現物寄付(計24,233,419円)を含む。
(注2) MSFフランス他のオペレーション事務局がそれぞれ運営する、人道援助プログラム(中央アフリカ共和国、ナイジェリア他全24の国、地域)に配分した。財務諸表に対する注記13.参照。
(注3) 証言活動のための公共イベント費、および募金活動費の、"ファンドレイジング・キャンペーン費"に含まれる、活動地での援助活動状況の広報費、ならびに一般社会への証言活動費の一部を組替えている。
(注4) 使途指定寄付金は、当年度中にMSFフランス、MSFスペイン、MSFオランダおよびMSFベルギーを通して、指定された国・地域のプログラムに配分し、一部は国内での西日本豪雨での被災者への診療活動費に充当した。なお、一部は支援者との約定により翌年度へ繰り延べた。(財務諸表に対する注記5.参照)
(注5) ソーシャルミッション・レンオ等は、当年度より、経常費用合計から"その他海外向け支援金"を控除したものを分母として算出している。前年度についても同様。

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

貸借対照表

2018年12月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	増 減 比
I. 資産の部				
1. 流動資産				
現金および預金	1,354,727,063	987,841,608	366,885,455	37.1%
未収入金(注1)	110,361,137	102,488,926	7,872,211	7.7%
前払費用	12,553,957	10,748,630	1,805,327	16.8%
立替金(注2)	90,131,448	84,367,840	5,763,608	6.8%
その他流動資産	15,003,429	15,168,584	△ 165,155	△1.1%
流動資産合計	1,582,777,034	1,200,615,588	382,161,446	31.8%
2. 固定資産				
1) 特定資産				
人道援助プログラム支援金積立資金(注3)	17,521,000	-	17,521,000	-
2) その他の固定資産				
建物附属設備(財務諸表 注記7.参照)	27,897,075	38,004,702	△ 10,107,627	△26.6%
事務用什器・備品(財務諸表 注記7.参照)	22,651,992	19,396,404	3,255,588	16.8%
ソフトウェア(財務諸表 注記7.参照)	26,072,191	2,178,446	23,893,745	1096.8%
長期差入保証金等	41,573,000	40,813,000	760,000	1.9%
固定資産合計	135,715,258	100,392,552	35,322,706	35.2%
資産合計	1,718,492,292	1,301,008,140	417,484,152	32.1%
II. 負債の部				
1. 流動負債				
未払金(注4)	763,312,559	352,680,236	410,632,323	116.4%
預り金等	2,074,185	21,070,366	△ 18,996,181	△90.2%
流動負債合計	765,386,744	373,750,602	391,636,142	104.8%
2. 固定負債				
退職給付引当金(財務諸表 注記8.参照)	39,766,900	37,218,300	2,548,600	6.8%
固定負債合計	39,766,900	37,218,300	2,548,600	6.8%
負債合計	805,153,644	410,968,902	394,184,742	95.9%
III. 正味財産の部				
指定正味財産	17,521,000	-	17,521,000	
一般正味財産(財務諸表 注記15.参照)	895,817,648	890,039,238	5,778,410	0.6%
正味財産合計	913,338,648	890,039,238	23,299,410	2.6%
負債および正味財産合計	1,718,492,292	1,301,008,140	417,484,152	32.1%

(注1) 外部の委託業者により支援者からの回収が滞んでいる寄付金(支援者口座からの引落しは、当年度末日までに完了)のうち、当年度末日現在、同委託業者から未入金のもの。
(注2) MSFフランス、MSFスイス等のオペレーション事務局およびインターナショナル・オフィス等に対して、国内で立替えた海外派遣スタッフ等に関する経費等である。
(注3) 流動資産の現金および預金から振り替えたものであり、本年度に受領した指定寄付のうち、約定により翌年度に人道援助プログラム支援金として使用するものである。財務諸表に対する注記5.参照。
(注4) MSFフランス、MSFスペインおよびMSFスイスに対する、プログラム支援金 計492,259,091円を含む。

＊MSF日本の財務諸表の詳細は、公式ウェブサイトでご覧いただけます。
Full set of Financial Statements in English is available on our official website.

財務諸表に対する注記

1. 財務諸表の作成基準

国境なき医師団日本 (Médecins Sans Frontières Japon、以下"MSF日本") の財務諸表は、日本において一般に公正妥当と認められる公益法人会計基準 (平成16年10月14日改正) に基づいて作成されている。同基準は国際財務報告基準 (International Financial Reporting Standards) が求める適用要件や開示上の要件とは、いくつかの点で相違している。

2. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

- ①有形固定資産
定額法によっている。(耐用年数は建物附属設備および什器は3～5年、器具備品およびビデオ機器は3年)
- ②ソフトウェア
定額法によっている。(耐用年数は3年)

(2) 引当金の計上基準

退職給付引当金
職員に対する退職金の支給に備えるため、退職金規定に基づく期末要支給額を計上している。

(3) 収益の認識

寄付収入は原則として、現金主義に基づき認識している。ただし、一部の未収寄付金のうち送金通知書により回収額およびMSF日本への入金時期が確定し、かつ支援者に領収書を発行しているものについては、当年度の収益として認識している。

現物寄付の扱い

MSF日本は金銭以外にも、現物寄付として、医薬品、ICT機器、ソフトウェア、マイレージ、切手等、株主優待券およびプロボノによる役務提供の支援を受けている。これらの現物寄付は取得時に合理的に価額を見積もり、「寄付収入」として認識し、事業供用時に費用を計上している。

(4) 経常費用について

費用については、以下の主要な事業活動別に区分して表示している。なお、各事業活動に共通の間接経費については、年間実労働時間に基づいて算出した、各事業活動別の総職員数で按分し、それぞれ以下の事業活動に配分している。

(4)-1) ソーシャル・ミッション

- ①援助活動費
パートナーシップ協定を結ぶオペレーション事務局である、MSFフランス、MSFスペインおよびMSFスイス、ならびにMSFオランダ、MSFベルギーが世界各国・地域で運営する、人道援助プログラムに対し支援金を供与している。
- ②オペレーション・サポート・プロジェクト
アジアを含む世界各地での人道援助活動に寄与すべく、医療およびロジスティクスの面で、革新的な研究・開発、また創意工夫による改善に取り組むと共に、活動地で用いる物資を日本から直接調達する可能性についても検討を行っている。
- ③海外派遣スタッフ募集・派遣業務
MSF日本は5つのオペレーション事務局の人材ニーズに応じ、フィールドにて人道援助プログラムに従事するスタッフの採用手続き、海外派遣説明会等を実施すると共に、ビザ取得等の渡航準備、および各種の渡航前国内トレーニングを実施した後に海外の活動地に派遣している。
- ④アドボカシー活動費
MSFの各事務局と連携し、各国政府、国際機関、製薬会社等に対し、働きかけを行っている。
- ⑤広報活動費
MSF日本は、主要なミッションの一つとして、世界各地での人道的医療援助活動の現場での最新情報について、出版物、ウェブサイト、展示会ならびに各メディアを通して、既存の支援者および一般社会等に対して周知活動を行っている。

(4)-2) 募金活動費

MSF日本は、援助活動に充てる十分な資金を確保するため、さらなる支援者を募ることを目的として、ダイレクトメールおよび既存の支援者向けのニュースレター送付等による、募金キャンペーンを行っている。

(4)-3) マネジメントおよび一般管理費

マネジメント、および人事・財務・総務・ICT等の管理部門の間接経費である。

(4)-4) その他海外向け支援金

MSFインターナショナル事務局は、ネットワークで結ばれたMSF全事務局、およびその他のMSF関連組織の間の調整業務を担う組織で、その運営費については、MSFの全事務局が応分の負担をしている。また、同事務所経由で、必須医薬品キャンペーンならびにDNDi (非営利団体：「顧みられない病気の新興開発イニシアティブ」) に対し資金を援助している。なお、MSF韓国事務所活動支援金については、本注記14.を参照。

(5) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

3. 為替変動リスクのヘッジ

MSF日本は、人道援助プログラム支援金を外貨にて送金している。送金に際しては外国為替相場の変動の影響を緩和するために、適宜先物為替取引を活用している。なお、投機目的では使用しない。

4. 表示方法の変更

(正味財産増減計算書、キャッシュ・フロー計算書)

前年度において、正味財産増減計算書の(2)経常費用のうち、ソーシャル・ミッションとして表示した、①援助活動費、④アドボカシー活動費、ならびにマネジメントおよび一般管理費に含まれていた、DNDiへの支援金、必須医薬品キャンペーン支援金、MSFインターナショナル事務局経費、およびMSF韓国事務所活動支援金は、いずれもMSF日本による活動との直接的な関連性が乏しいことに鑑み、活動をより明確に区分するため、当年度から、「その他海外向け支援金等」として表示している。また、正味財産増減計算書の表示方法の変更に伴い、前年度のキャッシュ・フロー計算書において、2.内外での人道援助活動による支出、(1)「ソーシャル・ミッション支出 a)人道援助活動のための支出として表示した、①人道援助プログラム支援金、④アドボカシー活動費、ならびに(3)マネジメントおよび一般管理費に含まれていた、上記の各支出についても当年度から、「(4)その他海外向け支援金等」として一括表示している。なお、これら表示方法の変更に伴い前年度についてもそれぞれ必要な組替えを行った。

(財産目録)

現金および預金は、その所在の明瞭性を高めるため、当年度より口座を保有する全ての金融機関毎に残高を表示している。なお、前年度についても同様に組替えを行った。

5. 基本財産および特定資産の増減額ならびにその内訳

当年度において指定正味財産として受け入れた資金のうち、東京マラソン財団から受領した、2019年3月実施の東京マラソンに関連するチャリティ寄付金17,521,000円については、約定に従い、翌年度において指定された国での人道援助活動プログラムに配分するため、当年度末において相当額を「現金および預金」に代えて「固定資産の部」に「特定資産」として表示している。

6. 担保に供している資産

該当事項はない。

7. 固定資産の取得価額、減価償却累計額および当年度末残高

(単位:円)			
科 目	取得価額	減価償却累計額	当年度末残高
建物附属設備	51,494,334	23,597,259	27,897,075
事務用什器・備品	80,914,155	58,262,163	22,651,992
什器	21,031,294	13,779,851	7,251,443
器具・備品	53,873,232	39,695,085	14,178,147
ビデオ機器	6,009,629	4,787,227	1,222,402
ソフトウェア	87,659,271	61,587,080	26,072,191
小 計	220,067,760	143,446,502	76,621,258
リース資産(ドナー情報管理システム等)	63,392,091	63,392,091	-
総 計	283,459,851	206,838,593	76,621,258

8. 退職給付引当金

(1) 採用している退職給付制度の概要

内部規定に基づき、退職一時金制度を設けている。

(2) 退職給付債務およびその内訳

退職給付債務 39,766,900円、退職給付引当金 39,766,900円

(3) 退職給付費用

12,874,100円

9. 保証債務等の偶発債務

該当事項はない。

10. 補助金等の内訳ならびに交付者、当年度の増減額および残高

該当事項はない。

11. 関連当事者との取引の内容

該当事項はない。

12. 重要な後発事象

該当事項はない。

13. 当年度の人道援助プログラム支援金の配分内訳

(単位:円)				
配分先	源泉	国内支援者(個人/法人)からの寄付	外務省からの助成金	MSF韓国からの Grant 注)
MSFフランス		4,264,285,243	52,665,200	268,049,557
MSFスペイン		1,216,000,000	-	-
MSFスイス		608,000,000	-	-
MSFオランダ		-	95,754,792	-
MSFベルギー		16,076,250	-	-
合計		6,104,361,493	148,419,992	268,049,557
				6,520,831,042

注) MSF韓国との取引については、以下14.をご参照。

14. MSF韓国との取引

当年度において、MSF日本は、MSF韓国に対し、活動支援費として、計127,213,471円を拠出した。一方、MSF日本は、2018年度において、韓国内での民間寄付収入のうち、計268,049,557円相当分をGrantとして受領した。この資金配分はMSFスイスとの覚書に基づくもので、経常収益として計上し、同額をプログラム支援金としてオペレーション事務局に配分した。

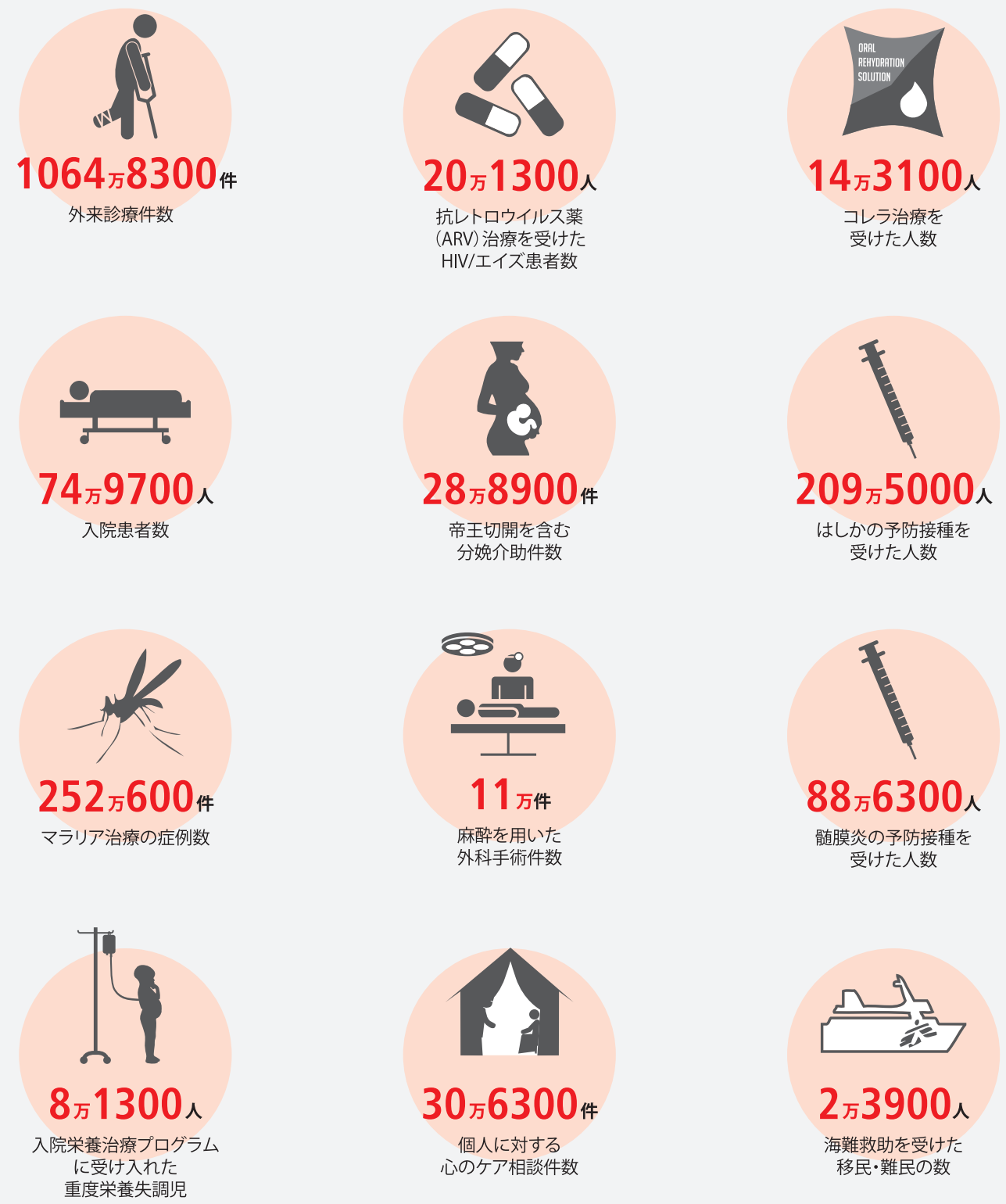
15. リザーブ・ポリシー (剰余金の方針)

MSF日本はリザーブ・ポリシーに従い、一般正味財産(以下、剰余金)として、海外への支援金等を除いた、年間国内総経費の月平均の最大5ヵ月分を留保する。自然災害等による緊急援助活動への円滑な対応、および予期せぬ経済変動による資金需給への影響を緩和するためである。当年度末の剰余金残高の水準は、4.9ヵ月である。

※ P.16～17は、MSF全事務局の活動を網羅した『国際版活動報告書 2017』（英文）の抜粋です。
2018年の実績は2019年7月に発表の予定です。
※ 個別数値は四捨五入して表記しているため、各数値の合算と「合計」が異なる場合があります。

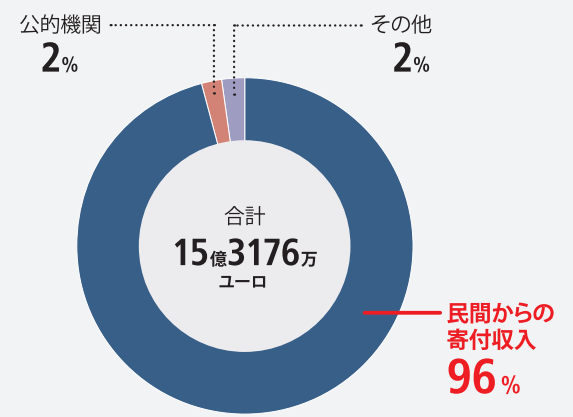
数字で見る活動ハイライト 2017

2017年、国境なき医師団 (MSF) は73の国と地域で462のプロジェクトを展開しました。
そのハイライトを数字でご紹介します。

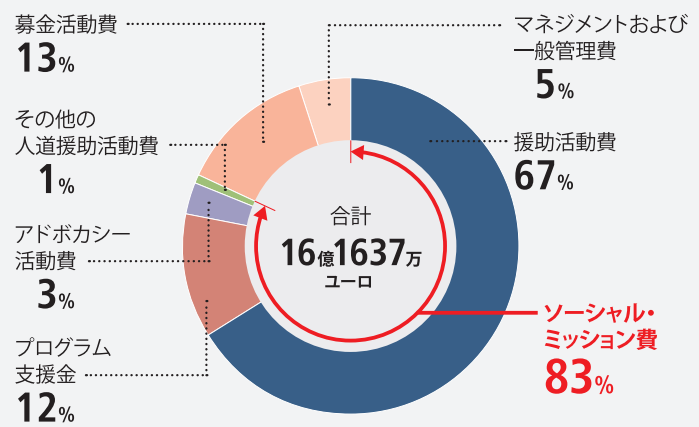


2017年の国境なき医師団 (MSF) 全体の総収入、15億3176万ユーロの96%は、約630万人の個人支援者を中心とする民間からの寄付でした。また、全支出の83%をソーシャル・ミッション費が占めました（「ソーシャル・ミッション」について、詳しくは10ページをご覧ください）。

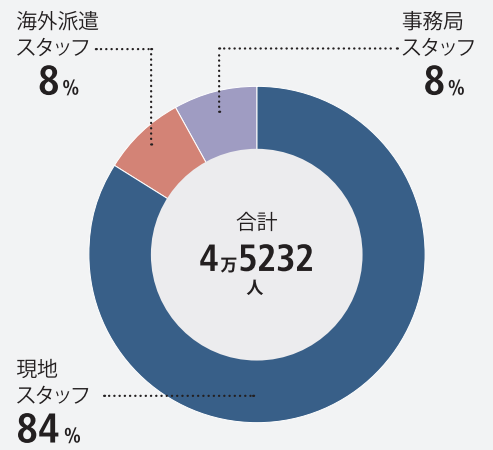
収入の内訳



支出の内訳



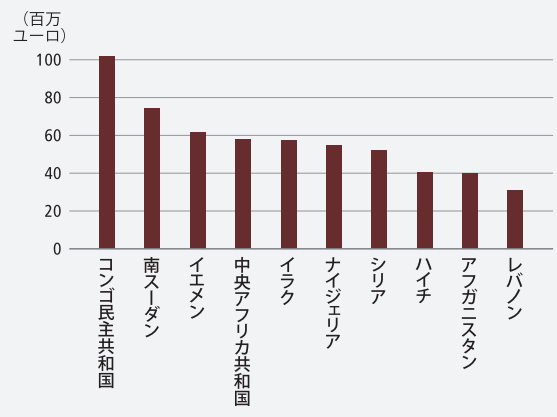
スタッフの内訳



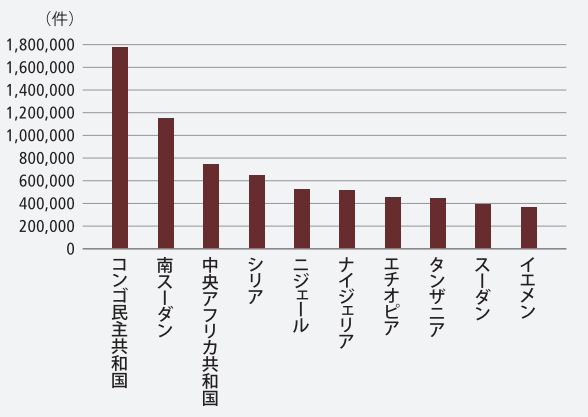
個人支援者



活動規模が大きい10の国 [プログラム支出額順]



活動規模が大きい10の国 [外来診療件数順]



皆さまのご支援、ありがとうございました

2018年、国境なき医師団 (MSF) 日本は、31万3188人の個人、9243の企業・団体の皆さまよりご支援をいただき、世界各国でのMSFの医療・人道援助活動に資金を提供することができました。皆さまのご厚意に、心よりお礼申し上げます。

個人支援者	
秋元 喜代寿	中村 とし子
東 淑子	中山 澄江
阿部 美和子	中山 知英
天谷 雅俊	西田 忠史
有光 公子	丹羽 利恵子
安藤 昭二	庭野 日鏡
飯田 恵子	野中 一
池田 順子	服部 重章
伊藤 文	林 暁兵
伊藤 久仁子	Hielscher Kai
稲垣 茂孝	福岡 顕
戌亥 修二	藤森 博昭
井上 桂子	古屋 美穂子
岩名 孝子	前田 武雄
上戸 彩	升田 隆雄
大坪 和子	松井 利夫
大野 明子	真邊 一彦
大曲 伸弘	三澤 志津
岡本 利和	皆川 博文
加田 満	宮本 精治
勝田 多美子	桃井 美鈴
川崎 壽江	横内 純子
河本 紀子	他
金 慶光	
黒崎 伸子	
小嶋 千栄子	
小杉 幸裕	
小林 健一	
才田 博幸	
先川 正三	
佐々木 まゆみ	
芝崎 憲次	
鈴木 國弘	
高尾 由紀	
高橋 敏彦	
高山 千羽子	
田村 俊郎	
永井 舞	
長尾 洋子	

MSFコーポレートサポーター

株式会社シグマ

MSFコーポレートサポーターとは、MSFの活動に対して、企業・団体としての賛同表明と、年間500万円以上のご支援、さらに社会に向けた活動紹介にご協力いただくプログラムです。

●事例紹介

株式会社シグマ



山木和人社長

共感と支援、10年以上

弊社は「総合映像企業」としてものづくりを通し、豊かな社会の創造、優れた文化の醸成、世界平和に貢献することを目指すとともに、社員一人ひとりが一企業市民として社会的責任を果たしたいと考えてまいりました。

MSFは営利を目的としない医療・人道援助活動を行っており、その中立性と不偏性、独立性に基づく理念と写真や映像による広報・教育活動が、「写真は豊かな文化と幸福の希求に根差す」という当社の創業理念と、世界各国で展開している弊社事業活動の実際に鑑みて深く共感できることから、10年以上にわたり支援を続けてきました。活動支援プログラム「MSFコーポレートサポーター」を中心に、啓発映像への機材協力や売り上げの一部を寄付させていただくなど、継続的に支援しています。

(代表取締役社長 山木 和人)

プロボノ・現物寄付

モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所
クリフォードチャンス法律事務所外国法共同事業
ホワイト&ケース外国法事務弁護士事務所
ウィングアーク1st株式会社
ゲーグル合同会社
株式会社セールスフォース・ドットコム
日本マイクロソフト株式会社
NHN テコラス株式会社
三和コムテック株式会社
株式会社 PR TIMES
リアリーイングリッシュ株式会社
大和リース株式会社
UBMジャパン株式会社
株式会社サンリブ
株式会社リンクマックス
株式会社クリエイターズネクスト
富士フイルム富山化学株式会社

支援企業・団体

株式会社ブレイリードッグ
株式会社保険見直し本舗
株式会社大和証券グループ本社
大和証券株式会社
リンベル株式会社
ソフトバンクグループ
株式会社 ワカト
コネクシオ株式会社
リタ・マークス株式会社
フォーク株式会社
一般社団法人田代基金
関西電機工業株式会社
アスプローバ株式会社
株式会社 みずほ
ヤフー株式会社
有限会社 亀吉商店
宗教法人まこと信心
農事組合法人ヤマギズム生活北海道別海実蹟地
大産住宅 株式会社
株式会社テムテック研究所
株式会社 木村洋行
株式会社ロードアンドスカイ
チムニー株式会社
マスターマインドコンサルティング合同会社
一般社団法人シェア基金
株式会社エボスカード
株式会社 サンプラント
株式会社オフィス・カラーサイエンス
株式会社ジェーシービー OkiDokiポイントプログラム
株式会社 稲葉電機
一燈国際特許事務所
朝日鑄工株式会社
博英工業株式会社
宗教法人 隆崇院
有限会社木場工業所
アビデ株式会社
有限会社サトー工業
lucifer research株式会社
京セラ労働組合
株式会社 名優
大須賀技建株式会社
有限会社アーク・アソシエイツ
斎清工業 株式会社
日比谷総合法律事務所
ユニオンモーター株式会社
八千代電設工業株式会社
月島倉庫株式会社
株式会社リンクス・ビルド
株式会社不二機販
株式会社アイキ

次ページに続く

MSF日本(認定NPO法人)への寄付は、税制優遇措置の対象です

MSF日本への寄付は、税制優遇措置の対象となっています。所得税、法人税、相続税、一部の自治体の住民税において、それぞれに定められている条件を満たすことで、優遇措置を受けられます。なお、優遇措置を受けるためには申告が必要です。詳しくは、最寄りの税務署にお尋ねください。

支援企業・団体(続き)

小華薬品株式会社
丸中製菓株式会社
横山産業 株式会社
三ツ木建設工業株式会社
三信建物株式会社
株式会社林家族
株式会社 奥堀
汽罐部品製造 株式会社
株式会社高山ジャパン
一般財団法人東野海外医療救護センター
ハルナビパレッジ株式会社
公益社団法人 日本紅卍字会
トラコム株式会社
株式会社ベストホークス
株式会社半農Style
八海醸造株式会社
株式会社 日本財託
株式会社オリエンタルランド
OLCグループこどもスマイル基金
大和ハウス工業株式会社
東亜物産株式会社
日動工業 株式会社
株式会社ハウスパートナー
株式会社 三
JAMMIN合同会社
株式会社ベネフィット・ワン
株式会社内藤建築事務所
株式会社日立インスファーマ
医療法人 宗和
株式会社ジャックス
J・M・K実行委員会
株式会社アイテム
ベン株式会社
金氏高麗人参株式会社
株式会社 消防試験協会
ACJ株式会社
首都開発株式会社
医療法人松風会
株式会社コーラルヘルスケア
クリーンエネルギー株式会社
株式会社ゼネラルアサヒ
医療法人緑明会
みつわ工業有限会社
四大學應援團(学習院大学、成蹊大学、成城大学、武蔵大学)
公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団
公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団
ピースフル・コンサート越谷
樋口特定社会保険労務士事務所
森永乳業株式会社
森乳スマイル倶楽部

株式会社 新興ハウス
株式会社ナノエッグ
株式会社メビウス製薬
株式会社ワールドアセット
宗教法人 明月院
デスタン株式会社
株式会社シンクスコーポレーション
株式会社フライトワン
株式会社宝機材
三建塗装工業 株式会社
株式会社ツチヨシアクティ
株式会社ソーゴ
株式会社ヤマシタ
フロストインターナショナルコーポレーション株式会社
一般財団法人世界聖典普及協会
株式会社コスモホーム
株式会社マカベ
有限会社稲垣工業所
株式会社 丸昌
エネストコーポレーション 株式会社
ケイヒングループ 京友会
株式会社トーコネ
株式会社 ソリスプロデュース
株式会社和泉エンジニアリングサービス
株式会社 ケイ・ウノ
株式会社霧島エッグ
公益財団法人 野村生涯教育センター
ムラテッククリーンボックス株式会社(株式会社日本シューター)
有限会社 ケイジーケイシステム
Neolive
スズカ電工株式会社
国際ソロプチミスト敦賀
増幸産業株式会社
株式会社大林組
株式会社大林組社員有志一同
日本郵船株式会社

他

※大口のご寄付をいただいた企業・団体のお名前を掲載しております(順不同)。

MSF日本 2018

謝 辞

Acknowledgements

MSF日本 2018

ご支援方法・事例

How to Support MSF

企業・団体・個人のご支援方法・事例

国境なき医師団(MSF)日本の寄付収入は、95%以上が民間の皆さまからの寄付(内訳は個人92.8%、企業6.2%、その他民間団体1%)で成り立っています(2018年度実績)。皆さまからの継続したご支援は、MSFの活動を通じて医療を受けられずに苦しんでいる人びとを救う、大きな力となります。ご支援は一般のご寄付に加え、さまざまなプログラムから、ご希望の社会貢献活動に合致したものをお選びいただけます。ぜひご協力ください。

商品・サービスを通じた寄付

各企業の製品・サービスなどの販売活動を通じてご支援いただくプログラムです。企業理念やブランド力を生かし、ビジネスの成長と社会貢献の両立が可能です。

●事例紹介

フォーク株式会社



「医療ユニフォームに携わるメーカーとして、世界各地で命の危機にひんしている人びとへの緊急医療援助を続ける国境なき医師団に協賛したい」という思いのもと、オリジナル商品「国境なき医師団スクラブ」などの売り上げから、1着につき300円を寄付いただいています。



株式会社プレーリードッグ



企業理念に「地球愛」を掲げ、マスク&マスクケースやエコバッグの売り上げから、1点につき10円を寄付いただいています。



プロボノ・現物寄付

各企業の製品・プロフェッショナルサービスや施設の一時提供などを、現物寄付として提供いただくプログラムです。ビジネスで培った優れた商品力やスキルが、MSFの医療・人道援助活動に、生かされています。

●事例紹介

モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所

クリフォードチャンス法律事務所外国法共同事業

ホワイト&ケース外国法事務弁護士事務所

契約書の精査など法務関係の相談・指導。



NHN テコラス株式会社



ウェブサイトのサーバーとサーバーの保守サービスを無償でご提供。

大和リース株式会社

UBMジャパン株式会社

株式会社サンリブ

駅前や商業施設、イベント会場などでMSFの活動を紹介する「街頭キャンペーン」活動の開催場所をご提供。



街頭キャンペーン開催地のご提供を募集中

「街頭キャンペーン」の開催場所を1日単位でご提供いただける企業やイベント主催団体を、随時募集しています。

企業・団体によるご支援の窓口を設けています

企業・団体としてのご支援に関するご相談は、こちらまでお寄せください。

●メール:corporate@tokyo.msf.org ●電話:0120-999-199 (平日9:00~18:00 土日祝・年末年始休 通話料無料)

マッチングギフト

社員個人の寄付に対して、所属する企業がマッチング（同額を上乗せ）して寄付することにより、企業の社会貢献活動を促進するプログラムです。社員と企業が力を合わせて社会貢献活動に取り組むことにより、社会貢献活動としてのインパクトが大きくなることはもちろん、社内の一体感も高まります。

●事例紹介

OLCグループ こどもスマイル基金

東京ディズニーリゾートなどの経営・運営を行い、従業員の方の任意参加プログラム「OLCグループこどもスマイル基金」の寄付先の1つに、MSFを選定。

森乳スマイル倶楽部

従業員の方々の自発的な意思で設立された「森乳スマイル倶楽部」。社員有志から集まった寄付金に企業がマッチングする形で、2010年からご寄付。

日本郵船株式会社

社員有志で構成されるNYKボランティアサポーターズと企業の健康経営推進「POPEYEプロジェクト」がコラボレーションし、「チャリRUN」（チャリティ皇居RUN+WALK）キャンペーンを実施。参加費に加えて、社員による（皇居）累積周回数×100円を企業からのマッチングとして寄付していただきました。

ポイント寄付

クレジットカードのポイントなど各企業のポイントプログラムを通じてご支援いただくプログラムです。ポイントの有意義な使い方として、また気軽に寄付できることから、幅広い層に人気です。

●事例紹介

Tポイント募金

Tポイント募金の寄付先の1つにMSFを選定。

寄付型自動販売機

缶やペットボトル飲料の売り上げの一部が寄付となるチャリティ自動販売機。敷地内に設置していただける方を随時募集しています。

●事例紹介

寄付型自動販売機普及協会

設置をご検討いただける方はこちらまでご相談ください。
電話：0120-937-650
http://kjf.or.jp/



コミュニティ・ファンドレイジング

学校・地域・コミュニティ、および各企業において実施するイベントや、社員による募金活動などを通じてご支援いただくプログラムです。また、児童・生徒の方を対象にした出張講演や出張授業のご依頼も受け付けています。

●事例紹介

帝国ホテル 東京

館内の飲食店の一部に募金箱を設置。

豊島岡女子学園 中学校・高等学校

2002年より毎年、文化祭のバザーの収益金の一部をご寄付。

ピースフル・コンサート越谷 実行委員会

2009年より毎年、入場チケットの売り上げからご寄付。



遺産・相続財産・香典の寄付

▶ 遺贈寄付

（ご本人による寄付）

遺言に基づいて特定の個人や団体に資産を分け与えることを「遺贈」と呼びます。遺言書において、一部または全ての財産の受取人としてMSF日本を指定することで、命を救う活動に遺産を役立てることができます。

▶ 相続財産からの寄付

（ご遺族からの寄付）

相続された財産を寄付することによって、故人のやさしさを“つぎの命”として遺すことができます。相続税の申告期限内に寄付を完了した場合、寄付した財産には、相続税が加算されません。

▶ 香典・供花代の寄付

葬儀に寄せられた香典や供花代へのお返しに代えて寄付いただくことにより、会葬者の皆さまの故人へのお気持ちを、医療を受けられない人びとのために生かすことができます。香典・供花代をくださった方がたへのお礼状をMSFにてご用意させていただきます。

MSF日本 2018

MSF日本の活動から

Updates of MSF Japan



採用サイト「チーム国境なき医師団」をご覧ください

国境なき医師団(MSF)では、医師や薬剤師から、人事や物資調達専門家で、その道のプロが世界各地で活動しています。国内では、事務局スタッフの他、イベントや事務局運営を支えてくださるボランティアスタッフが働いています。あなたも、その力を生かしてみませんか。

■ 海外派遣スタッフとして参加

世界各国の活動地で、医療スタッフの他、物資調達担当、人事・財務担当ら非医療スタッフを随時募集しています。

■ ボランティアとして参加

国内での広報・募金を目的としたイベントや、事務局の運営を支えてくださるボランティアを募集しています。

■ 事務局職員として参加

日本事務局は、資金調達、海外派遣スタッフの採用・派遣、広報などさまざまな業務を行っています。職員は不定期で採用しています。

チーム 国境なき医師団

www.msf.or.jp/team_msf/



国境なき医師団日本

Médecins Sans Frontières Japan

理 事

会長 加藤 寛幸

副会長 久留宮 隆

副会長 中嶋 優子

専務理事 黒崎 伸子

会計役 村田 慎二郎

理事 櫻井 理咲子

ジャン・ファブリス・ピエトゥリ

Jean-Fabrice Pietri

鈴木 基

田岡 知明

ユ・ソヒ

Seuhee Yoo

吉野 美幸

監 事

ジル・デルマス

Gilles Delmas

（2019年3月末現在）

国境なき医師団(MSF)日本は1992年に設立され、1997年にMSFの事務局の一つとして独立組織となりました。1999年に特定非営利活動法人(NPO法人)として東京都の認証を受け、2002年には認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)として国税庁の認定を受けました。その後、2012年のNPO法の改正により所轄庁となった東京都から、2013年7月に1度目の、2018年7月に2度目の認定更新を受けています。

活動をご支援ください

国境なき医師団の活動は、皆さまからの寄付で実現しています。私たちとともに、命を救う力となってください。

寄付の申し込み
資料請求は

0120-999-199

（通話料無料 平日 9:00～18:00）
土日祝・年末年始休

www.msf.or.jp



国境なき医師団日本(認定NPO法人)への寄付は、所得税、法人税などの優遇措置の対象となります。

遺産・相続財産・香典によるご支援の窓口を設けています

遺される資産からの寄付(遺贈寄付)、相続された遺産からの寄付、香典・供花代からの寄付など、ご遺志を託し、未来に生かす社会貢献を選ばれる方が増えています。遺産からの寄付について詳しくは、担当者までご連絡ください。個別のご相談にお答えし、詳しい資料をお送りします。

- 相続財産、香典・供花代からの寄付に関する資料請求
 - 電話:0120-999-199 (平日9:00～18:00 土日祝・年末年始休 通話料無料)
- 遺贈寄付ご相談・資料請求
 - 直通電話:03-5286-6430 (平日10:00-17:00、土日祝・年末年始休 相談無料。通話料はご負担ください)
 - 直通メール:legacy@tokyo.msf.org